

## 学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	加藤 由美
2. 審査委員	主査：（岡山大学教授） 安藤 美華 代 副主査：（岡山大学教授） 上地 雄一郎 委員：（岡山大学教授） 高橋 敏之 委員：（鳴門教育大学教授） 山崎 勝之 委員：（岡山大学教授） 尾上 雅信
3. 論文題目	若手保育者の困難感と対処に着目した心理教育的介入に関する研究
4. 審査結果の要旨	<p>学校教育実践学専攻学校教育臨床連合講座 加藤由美 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時： 平成28年2月11日（木）15時00分～16時00分          場所： 岡山大学教育学部 本館3階 346教育臨床演習室</p> <p>1. 学位論文の構成と概要          （1）論文の構成          本論文は、以下に示す6つの章から構成されている。</p> <p>序章 本研究の問題意識、目的および構成          第1節 本研究の問題意識          第2節 用語の説明          第3節 本研究の目的と構成</p> <p>第1章 若手保育者の抱える困難感に関する先行研究の概観          第1節 研究の背景と目的          第2節 方法          第3節 結果          第4節 考察</p> <p>第2章 若手保育者の抱える困難感に関する質的研究          第1節 若手保育者の困難感に関するインタビュー内容の分析          第2節 若手保育者の職務上の人間関係に関する困難感についての自由記述アンケートの分析</p>

### 第3章 若手保育者の抱える困難感とそれに関連する心理社会的要因に関する量的研究

#### 第1節 研究の背景と目的

#### 第2節 方法

#### 第3節 結果

#### 第4節 考察

### 第4章 心理教育“サクセスフル・セルフ”若手保育者版の作成と評価

#### 第1節 若手保育士を対象とした心理社会的ストレスを予防するための心理教育“サクセスフル・セルフ”のプロセス評価研究

#### 第2節 幼稚園教諭を対象とした心理社会的ストレスを予防するための心理教育“サクセスフル・セルフ”のプロセス評価研究

#### 第3節 保育者を対象とした心理社会的ストレスを予防するための心理教育“サクセスフル・セルフ”のプロセス評価研究

### 第5章 本研究の総括

#### 第1節 総合的考察

#### 第2節 本研究の課題と今後の研究の展望

## (2) 論文の概要

各章の概要は、以下に示すとおりである。

序章では、子どもの健全な成長のため、保育者（幼稚園教諭や保育士）のメンタルヘルスは重要であるにもかかわらず、保育者の勤務環境は厳しく、ストレスや困難感が多数指摘されている一方で、そのような困難感への具体的な対処や支援に関する実践報告は少ない現状が示された。特に、多くの困難を感じやすい若手保育者に向けて、メンタルヘルス対策の必要性が強調された。そのような問題意識に基づき本研究は、若手保育者を対象とし、職務上の困難感の心理社会的要因を抽出し、それを参考に、心理教育的プログラムを作成、実施し、評価することを目的に行われた。

第1章では、若手保育者を含む保育者の困難に関する国内外の先行研究の概観が行われた。困難感の内容と関連要因、対処法の検討から、若手保育者は特に、保育技能や職場の人間関係に困難を感じていることが明らかになった。このような困難感への対処法として、勤務環境の整備、職員同士の保育観の共有、保育者効力感の向上、対人関係能力の向上、問題・ストレス対処法を身に付けるといった点が指摘されていたことが示された。

第2章では、第1章の概観から見えてきた若手保育者の状況に関して、実際に若手保育者はどのような困難感を抱え、どう対処しているのか、具体的な内容を明らかにすることを目的に、若手保育者16名、保育経験者6名に対して、面接調査が実施された。面接内容の質的検討から、主として若手保育者は、保育者としての未熟さ、仕事の大変さ、人間関係の困難感を抱えており、これらは互いに重なり合う部分があることが明らかになった。このような特徴は、若手保育者に対して中堅以上の保育者を対照群として行われた質問紙調査の112名の自由記述の内容分析からも、職員間の連携の困難感を抱えている若手保育者が極めて多いことが明らかになった。

第3章では、第1章、第2章の結果を踏まえ、若手保育者の職務上の困難感の特徴とそれに関連する心理社会的要因を量的に検討することを目的として、保育者374名の質問紙調査の回答が解析された。既存の尺度を参考に第2章の質的検討に基づいて作成した職務上の困難感項目に対して探索的因子分析を行い、仕事の大変さ、保育技術の未熟さ、人間関係の困難感、職場環境への不満、ネガティブな職場の雰囲気 の5因子を抽出した。この困難感に関する因子を含めて、個人要因ならびに心理社会的要因と保育者のメンタルヘルス指標の一つである抑うつとの関連が検討された。相関分析、重回帰分析、パス解析から、人間関係の困難感は、楽観的性格および首尾一貫感覚とともに直接的にも、また問題回避による対処スキルを介して間接的にも、抑うつと関連することが示された。

第4章では、第1～3章の結果を踏まえて、若手保育者の対人関係スキルや問題への対処スキルを育むことで、職務上の困難感が緩和され、健康で自分らしく仕事ができることを目的とした心理教育プログラムを新たに作成、実施し、評価が行われた。自己理解と人間関係に焦点をあて、自己洞察・困難への対処解決・ソーシャルスキルといった方法を用いて、感情面・認知面・行動面に働きかけることで、メンタルヘルスを保持・増進させる可能性が示されている心理教育“サクセスフル・セルフ”を基盤として、“サクセスフル・セルフ”若手保育者版が作成された。若手保育士63名、様々な保育経験年数の幼稚園教諭75名を対象として、それぞれ実践を行い、プログラムの理解度、難易度、役立ち度、感想についてプロセス評価が行われた。分析に基づきプログラムの改訂が行われた後、保育者14名を介入群、その間プログラムを実施していない保育者7名を統制群として、プログラム前後の時期に、対処スキル、社会性に関する自己効力感等で構成された質問紙調査を行い比較検討したところ、有意な差は見られなかった。そこで、参加者の変化を個別に検討したところ、プログラムに全て参加した者は、プログラムに一部参加した者に比べて、対応のスキルや困難に打ち勝つ自己効力感において、得点の増加が多く見られた。また、参加者の感想分析から、自分の行動や気持ちのもち方、保育への取り組み等に関して前向きな記述が多く見られた。プログラムは、参加した保育者にとって仕事に対する自身の考え方や姿勢を振り返る有意義な機会となったことが伺われた。

第5章では、一連の研究結果について総合的考察を行うとともに、限られた地域における一部の保育者を対象としている研究の限界が述べられた。それらを踏まえて、若手保育者の困難感と対処に着目して行われた先行研究の概観、質的研究、量的研究を基盤に作成した心理教育プログラムによるメンタルヘルス対策構築の意義が示された。

## 2. 審査経過

本研究は、小学校就学前の乳幼児への人間形成の基礎を培う教育・保育を担う保育者、なかでも様々な困難感を抱えやすい状況にある若手保育者のメンタルヘルスの保持・増進の支援方法を作成し、有用性を検討することを目的に行われた。支援方法を作成するために、若手保育者の困難感と対処の視点から先行研究の概観、質的検討、量的検討が行われている。それらを踏まえ、有効性が示唆されているプログラムを基盤に、若手保育者向けの心理教育プログラムを作成、評価するという、丹念な検討の積み重ねによりすすめられた研究と言える。そして、若手保育者が困難感に対処する方法支援を示すに至った論文として、十分に整合性のある構成になっている。

本論文の審査において、主として次の点について、従前の研究を越えるすぐれた成果を収めていることが高く評価された。第一に、これまで多くの研究が行われ子どもの健全な成長のためには、保育者、特に様々な困難感を抱えやすい若手保育者のメンタルヘルス対策の重要性は指摘されているものの、ほとんど具体的な実践的研究として取り組まれてこなかった側面への研究視点の提案である。第二に、若手保育者のメンタルヘルス対策を構築するにあたり、困難感と対処に着目して先行研究の概観、質的研究、量的研究を行ったうえで、有効性が示唆されている心理教育“サクセスフル・セルフ”を基盤にした心理教育プログラムを作成し、実践、評価するという、実証的研究を実践的研究へつなげた点である。とりわけ、質的研究では、若手保育者の困難感と対処の詳細を明らかにすることで、メンタルヘルス対策の具体的なあり方を提案することができた。その一方で、本研究の不十分さも指摘された。たとえば、量的研究における統計的解析の不十分さ、実践的研究における評価の不十分さ、今後のメンタルヘルス対策としての継続や応用のあり方等が、今後の課題として残された点である。

しかしながら、全体として本研究は、子どもの健康な成長・発達を支える、保育者自身のメンタルヘルス支援に関する研究に多大な展望を与えるものであると評価された。

## 3. 審査結果

以上により、本審査委員会は、加藤由美の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するのにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。